

## 新春対談 市長×市民記者

市民記者の山崎さん、渡辺さんが、岡部市長に市政運営について聞きました。



(山崎・渡辺) 明けましておめでとうございませう。

(山崎) 本日はいろいろなお話を聞きしたいと思いますので、よろしく願います。

(市長) よろしく願います。

(渡辺) さて市長、昨年を振り返ると、どのような年でしたか。

(市長) 昨年は、実りの多い1年でした。私が約20年にわたり思い描いてきた、海上貿易で広く使われる海上コンテナを取り扱う物流施設「佐野インランドポート」が昨年11月9日に開所しました。「内陸の港を佐野へ」という夢が実現し、嬉しく思います。

また、11月25日・26日に開催された「全国山城サミット in 佐野」では、2日間で市内外から約1万人の方が参加してくださいました。唐沢山城跡のすばらしさを皆さんに再認識してもらったことだと思います。

**佐野インランドポートと周辺の開発について**

(山崎) 佐野インランドポートの完成は私も楽しみにしています。

た。今後はどのように活用していく予定でしょうか。

(市長) 2本の高速道路が縦横に走り、京浜港をはじめとした東日本地域のさまざまな港を選択できる本市の立地条件の良さを活かし、東北方面と首都圏、そして北関東地域と首都圏とを結ぶ物流拠点としての活用を図っていきます。

また、このような物流の効率化によって、地元企業の国際競争力の強化や企業の進出が促され、新たな雇用の創出といった地域経済の活性化につながるものと考えています。

(渡辺) 佐野インランドポートの近くにある出流原PAには、スマートインターチェンジが設置されるそうですね。

(市長) (仮称)出流原PAスマートインターチェンジは昨年7月に事業化が決定しました。設置が実現すると、佐野インランドポートへのアクセスがさらに良くなりますので、さらなる企業誘致や雇用創出などが期待されます。



市民記者  
山崎ちか子さん  
(鉢木町)

今後は佐野インランドポートを軌道に乗せるとともに最大限に活用し、出流原PAへのスマートインターチェンジの設置や、周辺の開発整備を推進して行く予定です。

**人口減少への対策について**

(山崎) 近年、市内でも空き家が増えているように感じます。

(市長) 平成27年に実施した調査では、市内には2230件の空き家があることが分かりました。この結果を受け、市では「佐野市空家等対策計画」を策定し、空き家問題解消に向けて取り組んでいます。

その取組の1つが、「空き家バンク制度」です。ホームページで空き家の情報提供と、買い手や借り手を募集しています。

(渡辺) 老朽化が進んでいる空き家も見かけます。地震などで倒



壊するのではないかと心配です。  
**(市長)** 老朽化が進み、地域の生活環境に悪影響を及ぼしている空き家については、所有者などに適切な管理をするよう通知を送り、対応を促しています。

特に倒壊の危険性がある「特定空家等」と認められる空き家については、所有者などに法律に基づいた助言や指導を行い、除却や改善を促しています。

空き家バンクを利用した方がリフォームをする場合、特定空家等を除却する場合いずれにしても、補助金制度を設け、空き家の有効活用と除却の促進を図っています。

**(山崎)** 田沼西地区小中一貫校が開校に向け整備が進んでいるそうですね。私が住んでいる葛生地域でも、小中学校の統廃合が計画されていると聞きました。



市民記者  
渡辺まさ代さん  
(葛生西)

**(市長)** 田沼西地区小中一貫校は、校名が「あそ野学園義務教育学校」に決まり、平成32年4月の開校に向け整備工事が進んでいます。

今後の計画としましては、平成34年4月に葛生地区小中一貫校、平成35年度以降に赤見地区小中一貫校の開校を計画しています。

**(山崎)** 学校の統廃合によって、子どもたちに良い影響はあるのでしょうか。

**(市長)** 学校の規模が大きくなりますので、いろいろな考えにふれ、お互いに切磋琢磨することにより、一人ひとりの資質や能力を伸ばしやすくなります。また、さまざまな種類の部活動など、子どもたちの選択の幅が広がりますと考えています。  
**交流人口増加に向け整備を進める「佐野市国際クリケット場」**

**(渡辺)** 旧田沼高校のそばを通るたび、クリケット場がいつできるのかと楽しみにしています。今後、どのように活用していくのでしょうか。

**(市長)** 現在、国の地方創生交付金を活用し、男子国際規格に準じた日本初となる国際クリケット場を、3月末の完成を目指し整備しています。

完成後は、クリケットの各種大会や海外チームを誘致したレベルの高い国際試合、社会人・大学生などの練習・合宿地として、市内外の多くの方に利用してもらおうことを予定しています。

また、民間の知識や経験がある方の意見も取り入れ、国際クリケット場を最大限に活用する方法を考えていきます。

**(渡辺)** 国際クリケット場ができることで、周辺地域の経済に良い影響があるのではと期待しています。

**(市長)** 現時点で明確なものはないかもしれませんが、多くの誘客を図る中で、地域のサービスマンなどへ好影響が波及していくものと信じています。

### 未来に向けた取組について

**(渡辺)** 4月から「第2次佐野市総合計画」がスタートしますね。どのようなことに取り組んでいくのでしょうか。

くのでしょうか。

**(市長)** 第2次佐野市総合計画は、平成30年度から12年間の市政運営の基礎となるものです。

本市の将来像である「水と緑にあふれる北関東のどまん中支えあい、人と地域が輝く交流拠点都市」を実現させるには、定住人口の確保が必要不可欠であることから、特に「定住促進」の推進に力を入れていきます。

**(山崎)** 若い方に佐野市の魅力を知ってもらい、「ここに住み続けたい」と思ってもらいたいですね。

今年ほかに、どのような目標をお考えですか。

**(市長)** 今年は、「産業・文化立市」も本格的に動き出します。本市が誇るさまざまな文化を活用し、人の流れを作り、経済にも結びつけられるよう、取り組んでいきます。

**(山崎・渡辺)** 今日はいろいろな話題をお話いただき、ありがとうございました。

**(市長)** ありがとうございます。

